IRANAME

イラナメ

イランにおける

イマーム・フセインの追悼儀式

信仰、記憶、そして受け継がれる想い



編集後記

「イラノラマ」今号では、毎年イラン人が敬い、国の宗教的・文化的伝統において卓越した位置を占めるアーシュラーの受難について語ります。多くの人にとって、これらの儀式は宗教的なものであるだけでなく、社会的・家族的な行事でもあります。ナズリ（食事の奉納）、地域の追悼行列、テキエやヘイアットといった儀礼空間の造営、旗のデザインや黒い布で飾られた街頭の装飾などは、民衆文化の一部となっています。イマーム・フサインへの追悼は、ペルシア詩、伝統演劇（タアジエ）、儀礼芸術、民謡、さらにはイラン映画にも反映されています。イラン・イラク戦争などの歴史的な危機においても、フサインへの追悼は国民的・道徳的一体感の要素として機能しました。したがって、イマーム・フサインへの追悼はイランの文化的アイデンティティの不可欠な部分です。毎年、イスラム暦のムハッラム月になると、イラン全土のコミュニティが集まり、シーア派宗教暦の最も重要な出来事の一つであるアーシュラーの追悼を称えます。この厳粛な祭典は、7世紀にカルバラーの戦いで命を落とした預言者ムハンマドの孫、イマーム・フサインの殉教を記念するものです。イランにおいてアーシュラーは単なる宗教的祭典ではなく、社会生活とコミュニティのアイデンティティに深く根ざした力強い文化的伝統です。祝典はさまざまな形をとり、祈り、儀礼、詩、演技が組み合わさっています。町や村では、人々が行列を組み、悲歌を詠唱し、集団的な悲嘆と精神的な内省を表現する儀式に参加します。多くの人にとって、この時期は追憶の時であると同時に、正義、犠牲、抑圧への抵抗という価値観の確認の時でもあります。イランのアーシュラーは、歴史、信仰、文化的表現が共存するさまを深く感動的に描き出しています。静かな近所で体験されるにしても、大規模な公の式典で体験されるにしても、それはすべての世代に響き続ける生きた伝統を反映しています。

カリ・アナグノシ！クリサンティ・パルツァナキ

目次

4 フセインとは誰か、そして彼への追悼の意味とは

6 カルバラーの蜂起

10 イマーム・フセインへの追悼文化と儀式

12 イマーム・フセインの追悼式典

16 イランにおけるムハッラムの追悼式

20 アーシューラーの日の式典

24 イランの各都市における歴史的な追悼式典



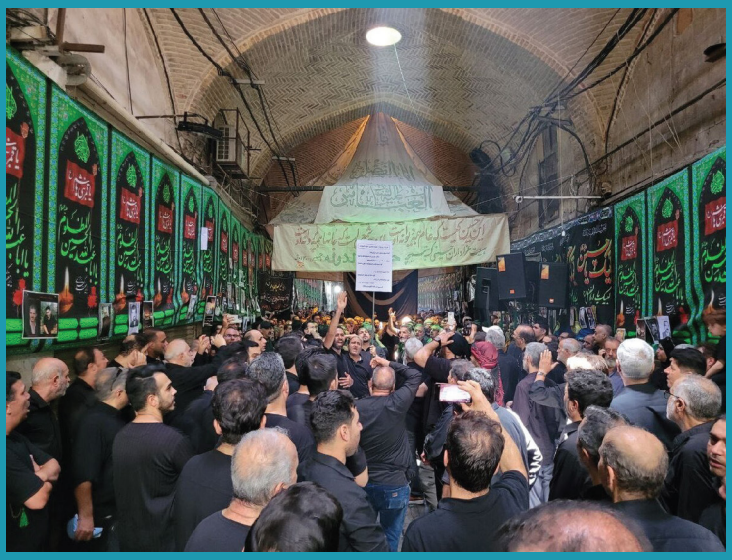
フサインとは誰か、またその追悼の意味とは?

イスラム史において、預言者と無謬のイマームたちの時代(約250年間)は非常に栄光ある時代です。シーア派の無謬のイマームたちは、常にイスラムの預言者ムハンマドに従い、人間性と正義を守ろうとしました。この歴史的時代の一部は、シーア派第三代イマームであるイマーム・フサインの指導に関わるものです。この時代、不正な支配者たちが統治し、イマーム・フサインに彼らへの忠誠を誓い、民衆への抑圧と不正義を支持するよう求めました。しかし、イマーム・フサインはその誓いを拒みました。

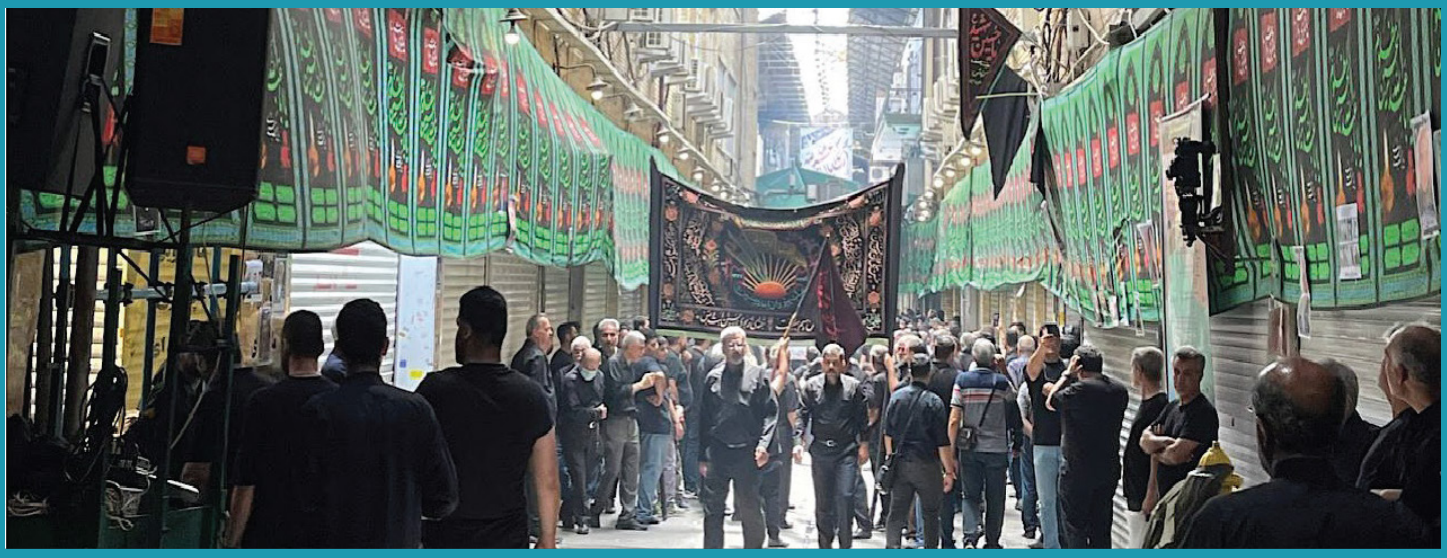
アリーの息子でありイスラムの聖預言者ムハンマドの孫であるイマーム・フサインは、ウマイヤ朝カリフのヤジード1世の専制に屈することを拒否しました。その結果、イマーム・フサインと72人の家族・同伴者は、抑圧的な体制に反乱を起こし、カルバラーの砂丘で残酷に虐殺されました。このため、シーア派信者たちはイマーム・フサインを称え、毎年ムハッラム月にその出来事の記念日を追悼します。シーア派信者たちは熱烈に殉教者を称えて追悼し、この悲劇を公の場でも私の場でも称えることを決して怠りませんでした。

イマーム・フサインへの追悼の真の本質は、彼と72人の家族・同伴者の殉教という悲劇的な出来事への悲嘆、そして重篤な病に苦しんでいたイマーム・アリー・イブン・フサインとともにアフル・アル＝バイトの女性と子どもたちが連行されたことへの悲嘆です。この追悼はアフル・アル＝バイトへの愛から生まれるものです。また、暴君と簒奪者の野蛮さによって犠牲となった抑圧された人々への当然の共感でもあります。ムスリムであれそうでなれ、カルバラーの出来事をわずかでも知る者は誰もが、イマーム・フサインとその家族・同伴者への敬意と共感を示さずにはいられません。

イマーム・フサインへの追悼は、美徳が罪悪に立ち向かい、抑圧された者たちの血が抑圧者たちの剣と槍に打ち勝ったその出来事の記憶です。それゆえ、カルバラーの殉教者への追悼は、悲しみの表現であるだけでなく、彼らを模範として歩むために、その道を辿るための洞察と動機を得ることです。これは、イマーム・フサインと同伴者たちの殉教のために涙が流れるとき、頂点に達します。この悲しみの前提は、カルバラーの悲劇的な出来事とその結果の理解です。この出来事は、それを知るすべての人に影響を与えます。そのため、何世紀にもわたって、アフル・アル＝バイトの信者たちはカルバラーの出来事を自分たちの最も深い悲劇と見なし続けており、その悲しみは忘れられるのではなく、年ごとに新たになります。









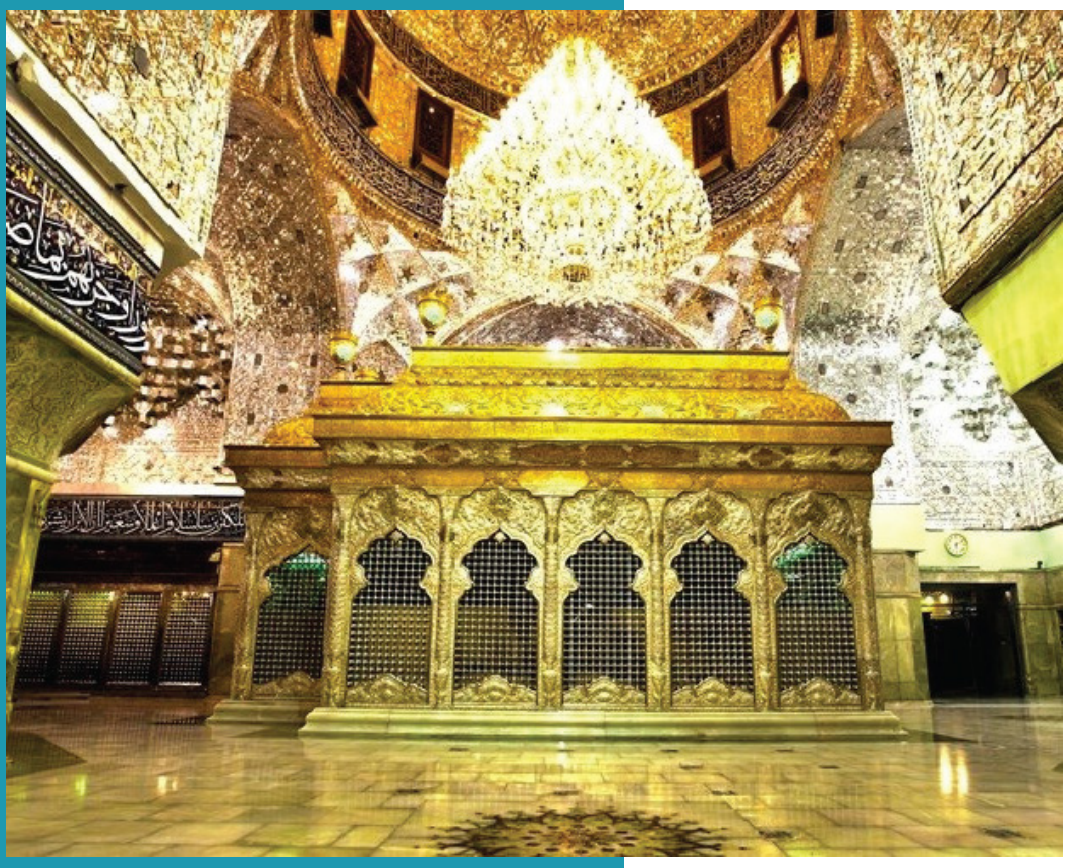


カルバラーの蜂起

西暦680年10月10日（ムハッラム月10日、ヒジュラ暦61年）に行われたカルバラーの戦いは、イスラム史において、特にシーア派ムスリムにとって深い宗教的・歴史的意義を持ちます。現在のイラク、カルバラー市付近で、西暦632年の預言者ムハンマドの死後の激しい政治的混乱の時代に起こりました。ムスリム共同体（ウンマ）を率いる正当な後継者をめぐって、ムスリムコミュニティは分裂していました。ムアーウィヤ1世によって創設されたウマイヤ朝が政治的策略によって権力を確保する中、多くのムスリム、特にイラクのムスリムたちは、その息子ヤジードの支配権の主張を拒否し、世襲による継承はイスラムの原則と相容れないと考えました。

ドクトル・サーデク・ファルムバンドの著書「イランの宗教的追悼儀式」に基づく

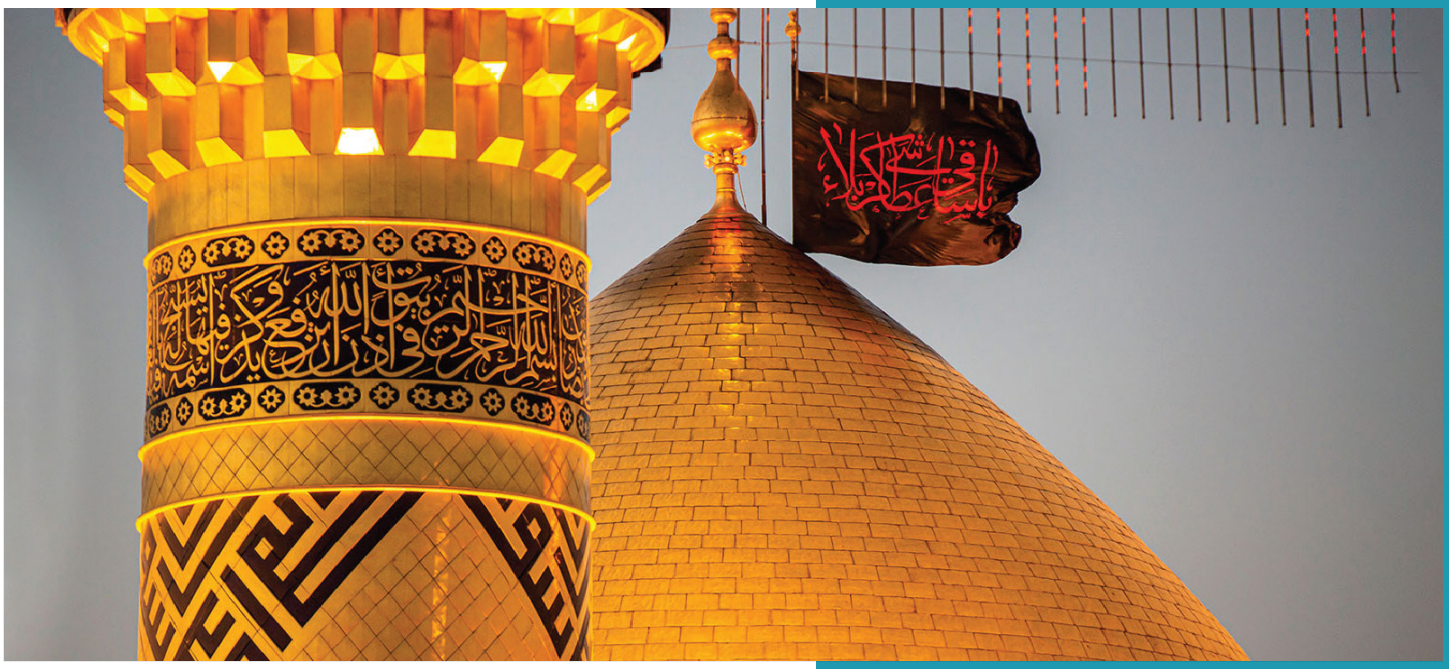


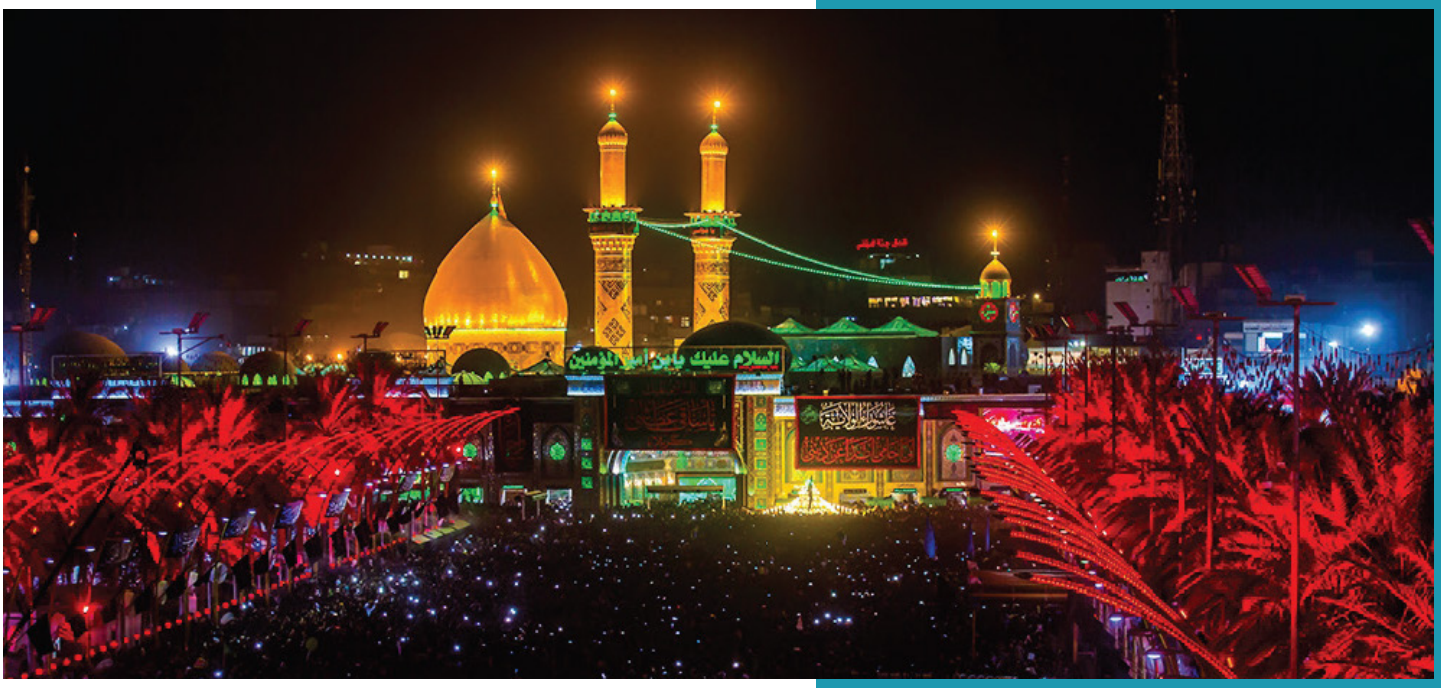


この対立の中心にいたのは、預言者ムハンマドの孫でシーア派の第四代カリフ兼第一代イマームであるアリー・イブン・アビー・ターリブの息子、フサイン・イブン・アリーでした。フサインはヤジードへの忠誠の誓いを拒否し、その権力を不正かつ非合法と見なしました。フサインの主張を支持しヤジードに対抗することを約束したクーファ（イラクの都市）の民の呼びかけに応え、フサインは少数の家族と信者の一団とともに出発しました。しかし、クーファに到着する前にヤジードの軍が彼を遮り、カルバラーの荒涼とした平原で包囲しました。

ムハッラム月10日、アーシュラーとして知られるこの日、フサインと少数の同伴者たち――合計約72名――は数千人と見積もられるウマイヤ朝の大軍と対峙しました。戦いは激しい虐殺に終わりました。フサインは幼い息子を含むほとんどの男性同伴者や家族とともに殺害されました。女性と子どもたちは捕虜となりウマイヤ朝の首都ダマスカスに連行されました。カルバラーの出来事は殉教、専制への抵抗、正義のための道義的闘争の象徴となりました。

カルバラーの遺産はイスラム神学、特にシーア派思想を深く形成しました。シーア派ムスリムにとって、フサインの姿勢は真実と正義のための究極の犠牲を代表しています。その殉教は毎年ムハッラム月、特にアーシュラーの日に追悼儀式、再現、公の行列によって称えられます。この出来事はシーア派のアイデンティティの発展においても中心的な要素となり、イスラム世界全体の政治的・精神的運動において強力なシンボルであり続けています。


يا سيد الشهداء عطشان كربلاء


السلام عليك يا أمير المؤمنين

イマーム・フサイン追悼の文化と儀式





イマーム・フサインへの追悼儀式は、イスラム暦ムハッラム月、特にカルバラーの戦いでのイマーム・フサインの殉教を偲ぶアーシュラーの日とその前後に、イランで見られる多くの深く感動的かつ象徴的な悲嘆の表現の一つです。これらの儀式では多くの宗教的聖歌が歌われます。行列で繰り返しリズミカルに唱えられるその一つは、「ああ、虐げられたフサインよ!」と概訳でき、深い喪失感と郷愁をかき立てます。これは単なる儀式ではなく、精神的な信仰、歴史的記憶、集団的アイデンティティを組み合わせたコミュニティ追悼の一形式です。

アーシュラーとは、最初の太陰暦月（ムハッラム）の10日目です。イランにおけるイマーム・フサインへの追悼は、街頭での厳粛な行列（ダスタ）からカルバラーの出来事の劇的な再現（タアジエ）まで、精巧で多様な形をとります。この聖歌は、特に小さな町や村で行列の際によく聞かれます。参加者は調整された動作で歩き、しばしば黒い衣をまとい、旗、フサインの廟のレプリカ、アラムと呼ばれる幟などの象徴的な品々を携えます。聖歌は悲嘆者が悲しみと連帯を表現するのを助ける統一のリズムを生み出すとともに、不正義への抵抗という精神的メッセージを強化します。



この儀式は単なる歴史的悲劇の再現ではなく、宗教的・政治的意味に満ちています。多くのイラン人、特にシーア派コミュニティにとって、カルバラーとフサインの殉教の記憶は抑圧への広範な闘争を象徴しており、聖歌は同時に抗議と祈りの一形式となります。この文脈において、「ああ、虐げられたフサインよ!」は記憶への呼びかけであると同時に、正義、犠牲、専制への服従の拒否という道義的原則の再確認となります。

世紀を経て、儀式はその感情的な力を保ちながらも進化してきました。ある地域では、リズミカルな胸打ち(スィーネ=ザニー)、詩、劇的な語りが伴われ、他の地域ではより控えめで内省的な場合もあります。しかし、核心的なメッセージは変わりません。フサインの記憶は集団的表現と精神的信仰を通じて生き続けなければならないということです。イランの文化において、この追悼は宗教的行為であるだけでなく文化的伝統でもあり、世代から世代へと受け継がれ、深い敬意とアイデンティティの感覚をもって行われます。

イマーム・フサインの追悼儀式

1. タアジエ — 宗教劇：

タアジエは、イマーム・フサインと同伴者たちの受難と殉教を再現する上演演劇の一種です。観客の感情的な参加と追悼を促すことを目的とした、音楽、衣装、語りの技法を用いた生きた劇化表現です。

2. マータム — 追悼儀式：
信者たちはホセイニーヤ（宗教集会の場）に集まり、太鼓と聖歌に合わせたリズミカルな胸打ちによる集団的な追悼が行われます。

3. 食事の配布（ナズリ）：
ヤズドの住民がナズリ、すなわち通行人と信者に無料で食事を提供することはとてもよく見られる光景で、イマーム・フサインへの信仰と追憶の行為として行われます。

4. 市街地の装飾：
街は黒い旗、幟、殉教者の肖像、コーランの節や追悼の詩で飾られます。通りは追悼の場となり、その雰囲気は重くも深い敬虔さに満ちています。


IMNA PHOTO
Marzieh Razazzadeh



5. スィーネ＝ザニー

カルバラーの戦い（西暦680年）後の初期世紀において、民衆的な悲嘆表現の伝統的な形式として始まりました。サファヴィー朝時代（16世紀〜18世紀）にシーア派がイランの公式教義となると、組織化された儀式として発展しました。

シーア派イスラム、特にイランにおけるムハッラム月の追悼で最も特徴的で感動的な慣行の一つです。スィーネ＝ザニーという言葉は文字通り「胸を叩く」（スィーネ＝胸、ザダン＝叩く）を意味します。カルバラーにおけるイマーム・フサインと同伴者たちの死に対する悲嘆と肉体的な痛みの表現の儀礼的行為です。信者たち、主に男性は、輪または列をなして集団で立ったり歩いたりします。これは単なる宗教的現象ではなく文化的現象でもあります。コミュニティの一体感の媒体として機能し、追悼においてすべての人が平等です。民衆演劇の一形式であり、語り歌や詩と結びついています。ホセイニーヤやテキエといった施設と関連していることが多く、これらが儀式を組織します。

信者たちは追悼の聖歌（ノウハ）のリズムに合わせて手で胸を打ちます。カルバラーの受難と殉教者たちの英雄性を語る悲歌を常に伴います。これは暴力や懲罰ではなく、イマーム・フサインへの愛、悲しみ、信仰の表現です。不正義への道義的闘争との同一化による集団的追悼の一形式です。

参列者に感情的な一体感をもたらし、精神的な浄化を提供します。スィーネ＝ザニーはイラン全土に広く普及していますが、ヤズドや他の伝統的な都市では特別な強度と神秘性を帯びます。特にムハッラム月の夜、ろうそくとランプで通りが照らされ、信者たちが黒い衣をまとう夜には特別な雰囲気が生まれます。


نینوا
صفائیه میرزه









イランのムハッラム追悼式典

イマーム・フサインの殉教への追悼儀式はムハッラム月1日から始まります。各都市の大きなキャラバンサライ、ムハッラム月中の追悼儀式実施の最も重要な中心地の一つである中央モスクで行われます。これらの追悼儀式にはさまざまな慣習が伴われており、その一つが「バイラマク」、すなわちろうそく灯しの慣習です。この慣習では、タースーアーの夜から夜にかけて、家族と同伴者とともにイマーム・フサインの最後の瞬間を偲んでモスクにろうそくが灯されます。アーシュラーの日にはイマーム・フサインの馬が戦場から戻る場面の情熱的な演劇として再現が行われ、これもアーシュラーの日に行われる別の儀式です。

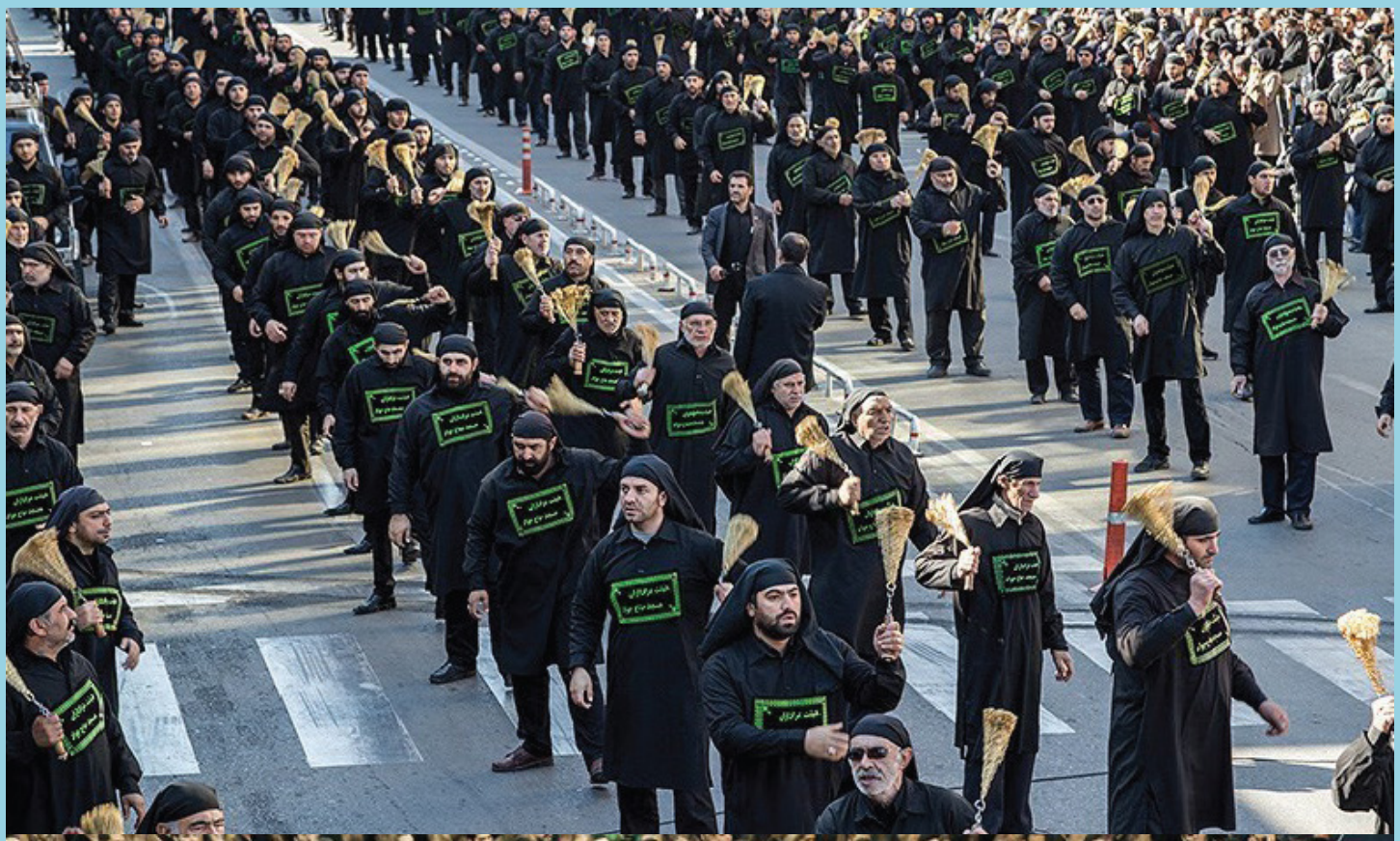
古くから、イランには多くの「ホセイニーヤ」があります。ホセイニーヤは活動の中心となる特別な場所です。この言葉は、その死の儀式がシーア派の中心的な焦点となっている第三代イマーム、フサインの名前に由来します。ホセイニーヤはもともと「ムハッラムの受難が再現されイマーム・フサインへの追悼が行われる広場または中庭」を意味します。通常、ホセイニーヤ、事務所、図書館、その他の施設は一つの複合施設内にあります。最も重要なホセイニーヤの一つはマラゲ市にあり、カージャール朝時代（19世紀）に「ライース・アル＝トゥッジャール」という名の男性によって設立されたハッジ・ガッファルのホセイニーヤです。ハッジ・ガッファルはマラゲの著名人の一人であり、すべての財産をこのホセイニーヤに寄贈しました。

「アッラー・アッラー・フサイナー・ワイナー」の儀式では、追悼者たちはハッジの巡礼者が着るものに似た白い衣や布を身につけ、日の出前にハッジ・ガッファルのホセイニーヤへ向かいます。そして、朝の礼拝を捧げ、その後、顔を泥で覆い素足で、「アッラー・アッラー・フサイナー・ワイナー」と唱えながらイマーム・フサインへの追悼を始め、ホセイニーヤを出て血で染めた旗に従いながら市の中心広場へと歩きます。道中、他の人々が一団に加わり、ある人々は追悼者たちが通る道で動物を犠牲に捧げ、その肉は追悼者たちに配られる料理に使われます。さらに、一部の人々は道中の追悼者たちにミルクとなつめやしを差し出します。市の中心広場に到着すると、追悼者たちは胸打ちの儀式を始め、その後座った姿勢で追悼します。この儀式は日の出まで続き、その間、さまざまな追悼者のグループが広場に来て追悼を行います。

そうした偉大で比類のない財産の一つがカルバラーの出来事です。無謬のイマームたちはカルバラーの出来事の復活と、将来の世代がこの偉大な出来事に含まれる教えから恩恵を受けられるよう、イマーム・フサイン（AS）の殉教への追悼に大きな重点を置いてきました。

イマーム・フサイン・イブン・アリーへの追悼は、人類を目覚めさせるためにイマーム・フサインと同伴者たちが行った犠牲への感謝と称賛の一形式です。さらに、毎年イマーム・フサインの殉教を称えるため世界中で行われる追悼儀式は、人類に多くの恩恵と成果をもたらします。例えば、イマームの信者たちの間に一体感を生み出し、イスラムの預言者一族の生涯と伝統を人々に知らしめ、神の証しへの愛と信仰を生み出し、社会を悪と不正義から浄化します。







アーシュラーの日の儀式

儀礼的な行列と式典

イランでは全国で公式式典が開催されます：

サム＝エ・ガリバーン：アーシュラーの夜、カルバラーの残された生存者を追悼するために、ろうそくの夜通し祈願と燃やされたテントの象徴的な再現が行われます。アーシュラー前後の他の儀式には、子どものためのホサイニー会議があります。ムハッラム月の最初の金曜日に行われ、その間に母親たちが赤ちゃんを連れてフサインの赤ちゃんであるアリー・アル＝アスガルを称えます。テヘラン、コム、マシュハド、その他の地域で広く行われています。

チェヘル・ミンバリでは、主にロレスターンの女性たちの間で、タースーアーの日（ムハッラム月9日）に参加者が顔を覆い、胸を叩き、ザイナブの追悼を称えてろうそくを灯します。

ムハッラム月の最初の10日間はアーシュラーで頂点に達する追悼儀式で満たされます。

モスク、ホセイニーヤ（特別な巡礼中心地）、広場、行列に沿った大規模な公の集会。

信者と旅行者は、感動的な再現を鑑賞し、追悼音楽を聞き、共同の食事に参加し、都市の景観を魅力的な追憶の式典に変えるろうそくの夜通し祈願に参列することができます。


یا ابوالفضل
یا علی ابن ابیطالب





作品名：アーシュラーの午後　作者：著名なイラン人画家マフムード



イラン各都市の歴史的な儀式



イランのさまざまな都市はそれぞれ独自の特別な儀式と慣習を持っており、それらは極めて多様で、この号ではその一部のみを紹介します。

ムハッラム月中のマラゲのろうそく灯しの儀式：



東アゼルバイジャン州のマラゲ市では、ムハッラム月中に特別で感動的な儀式が行われます。それがろうそく灯しです。

儀式は主に、霊廟、モスク、伝統的なテキエといった神聖な場所で行われます。最もよく知られているのはサイエド・ハムゼの聖所、赤いドーム、その他の歴史的儀礼センターです。信者たち、主に女性と子どもたちが夜にろうそくを灯し、信仰、追憶、カルバラーの犠牲者への追悼の表現として行います。



ろうそくの光は希望と不正義の闇への精神的抵抗の象徴とみなされています。雰囲気は穏やかで精神的、そして深く感動的です。時代と変化を経ても、この慣習はマラゲで大切にされ続け、この地域の文化的・宗教的アイデンティティの一部をなしています。

マラゲの住民たちは、アーシュラーの朝にハッジ巡礼者の衣装を身につけながら「アッラー・アッラー・フサイナー・ワイナー」（我が神よ、我が神よ、我がフサインはどこに）の儀式においてイマーム・フサイン（AS）の殉教を追悼します。
ムハッラムはイラン人にとって最も重要な宗教的祭典の一つです。ムハッラム月中、イランの人々はイマーム・フサインの殉教の記念日を追悼します。この追悼儀式は何世紀もの伝統を持ち、各地域の文化と地理に応じた特別な慣習とともに行われます。ムハッラムの追悼慣習の研究はイランの文化的多様性を示すことができます。

イランの東アゼルバイジャン州の歴史的に重要な都市の一つであるマラゲでは、ムハッラム月中に人々が特別な儀式を行いながらイマーム・フサインを追悼します。「アッラー・アッラー・フサイナー・ワイナー」として知られるこの儀式は、2012年に東アゼルバイジャン州の無形文化遺産目録に登録されました。

ハッジの巡礼者が着るイフラームの衣装を着ることは、ムスリムの二つの重要な儀式としてのハッジとムハッラムの追悼の間の繋がりの表れです。この慣習はイマーム・フサインの最後のハッジを思い起こさせます。彼は真実と正義の確立を目的にクーファへ向かうためハッジを途中で離れました。当時、クーファの住民たちはイマーム・フサインを自分たちの都市に招き、時代の専制的な支配者ヤジードに対する戦いに導くよう求めていましたが、彼が都市に到着する前に誓いと招待を破りました。マラゲの住民たちは素足でこの儀式に参加し、これがイマーム・フサインへの敬意の印であると信じています。追悼者たちが唱える「アッラー・アッラー・フサイナー・ワイナー」はアラビア語の詩の一部であり、「我が神よ、我が神よ、我がフサインはどこに？」を意味します。ハッジ中にイマーム・フサインに会う機会を得られなかった巡礼者たちが、彼の殉教後に集まり彼を探していたと伝わっています。



ナクル＝ガルダーニー：

ヤズド、タフト、カーシャーンのような都市では、コミュニティが大きな木製のナクル（象徴的な棺）をフサインの葬列を再現するために街頭に運び出します。タアジエ（受難再現）：カルバラーの悲劇の演劇的な再現がテヘラン、ヤズド、カーシャーン、イスファハーンのような主要センターで上演されます。ユネスコに認定されたこの形式は、演劇、音楽、詩を組み合わせています。

ザンジャーンのタースーアーの日の特別な儀式：

イランのザンジャーン市では、イマーム・フサインのために最も印象的で大規模な追悼儀式の一つが開催されます。特にタースーアーの日（ムハッラム月9日）には、イマーム・フサインの兄弟であるアブール・ファドル・アル＝アッバースに捧げられた儀式が行われます。

黒い衣をまとった何千人もの信者が、市内のさまざまな地区から始まりザンジャーンの偉大なホセイニーヤ（ホセイニーエ＝アザム）に至る組織化された行列に参加します。これはこの地域の最も重要な宗教的中心の一つです。

行列中、参加者は追悼の聖歌を唱え、リズミカルに胸を叩き（スィーネ＝ザニー）、儀礼的な幟を持ちます。式典は完全な秩序と集団的な沈黙によって特徴づけられ、コミュニティの一体感と敬意を証明しています。

この日の別の特別な要素は、誓いの動物犠牲（羊や牛など）であり、信者に無料で配られる食事の準備に使われます。この儀式は無形文化遺産として記録されており、イランにおける信仰、民衆文化、社会的連帯の間の結びつきの生きた例です。


پایتخت شور و شعور حسینی
ان الحسین مصباح الهدی و سفینة النجاة
حسین از من است و من از حسین هستم



pr@icro-jp.org
www.iranippon.jp